

書跡資料の調査

南都諸寺所蔵の典籍文書の調査は、前年に引き続いで薬師寺、興福寺、法隆寺について調査を実施した。薬師寺は、経箱第25～28函について調査をおこない、第22、23函を写真撮影した。調査と併せて、DB化も第23函までおこなった。全体の調査はまだまだ終了しないが、次年度で、調査終了分については区切りをつける予定である。興福寺は典籍文書目録第三巻分にあたる経箱第61函以降である。現在調査中の箱は、第61、69、70函の調査をおこなっている。法隆寺は、記録文書の目録作りであるが、概ね出来上がりに近づいている。

南都以外では、仁和寺の御経蔵目録の第1分冊を、管理調査用の稿本として作成しつつある。現在調査は、文化庁や科研調査に協力するかたちで、奈文研及び奈文研OBが数人参加しているが、従来奈文研が調査してきた成果を資料の管理調査用に活用しようとするものである。その他、醍醐寺文書、石山寺聖教の調査をした。また、文化庁や教育委員会の依頼を受け、奈良東大寺修二会関係資料、滋賀永源寺文書、京都興聖寺一切経、東福寺文書などの調査に協力をした。

北浦定政関係資料では、北浦宅での補足調査や「平城旧址之図」の写本の調査をした。
(綾村 宏)